

## ◇東北セミナー（盛岡、宇都宮）を開催

7月21日（木）盛岡（マリオス盛岡地域交流センター）において「健康と安心な住まいづくり」、7月22（金）宇都宮（栃木県総合文化センター）において「省エネ義務化と工務店の生きる道」をテーマにセミナーを(株)日本住宅新聞社主催、弊協会の協賛で開催し、盛岡会場で約40名、宇都宮会場で約50名の参加を頂き、盛況のうちに終了致しました。

東日本大震災以降、エネルギー消費削減の取り組みが加速、特に省エネが遅れている家庭部門でのエネルギー消費削減の取り組みが加速しています。建物の省エネ基準も見直しされ、最新の平成25年度基準では、2020年以降はその基準を満たさない建物は建てられなくなりました。（義務化）また、2020年を目標に50%の住宅をZEH（ネット・エネルギー・ハウス）化することを目指し、大手ハウスメーカー・大手工務店などでは対応商品化が進んでいます。これにより新築住宅については省エネ、断熱性能向上された建物がほとんどとなりますが、既存住宅の省エネ、断熱性能向上には課題が残っています。また、2030年度の新築住宅着工件数が今の約半分の53万戸に減少するとの予測が出ているなか、地方の工務店の生き残りも課題となります。

今回は、昨年に引き続き東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県の県庁所在地である盛岡では高気密・高断熱性な住まいの必要性を、未だ樹脂窓の普及率が低い関東の都市の1つである宇都宮では省エネ義務化に伴い、工務店が取り組むべき課題を中心にセミナーを開催致しました。

### 盛岡セミナー

講師の北海道大学羽山教授からは、「健康と安全を支える住まいの環境」をテーマに、健康住宅実現のための高気密・高断熱の必要性と各種データを元に説明、また、これからの工務店が取り組むべき課題について講演を頂きました。

講師の高知工科大学田島准教授からは、「住宅の省エネ基準義務化と冷房負荷の低減について」をテーマに省エネ義務化により、工務店はどのような取り組みを行うべきかについて講演を頂きました。

パネルディスカッションでは住宅の断熱に必須となる開口部に関してYKK AP(株)より樹脂窓、ピーエス(株)より放射冷暖房システムの有用性の紹介が行われ、これからの工務店が取り組むべき課題として、省エネ基準を守るだけでなく、住宅の性能保証、インスペクション（住宅診断）等による差別化の必要性について議論が行われました。



盛岡セミナー（7/21）

## 宇都宮セミナー

講師の田島准教授（前出）からは盛岡と同様の内容の講演を頂くとともに、講師の(一社)住宅管理・ストック推進協会徳富代表理事からは「国の政策から考える次世代工務店の姿」をテーマにインスペクションと中古住宅流通に如何に係っていけるかが生き残りのポイントとの講演を頂きました。

パネルディスカッションでは盛岡同様「工務店の生き残り」をメインテーマに、他社との差別化商材として(株)LIXIL より樹脂窓の紹介が行われるとともに、工務店の機能の多角化や地域や施主とのかかわり方について活発な議論が行われました。



宇都宮セミナー（7/22）

一昔前は長期優良住宅の家は随分とハードルの高い住宅という印象を受けていましたが、昨今は、ベースが長期優良住宅の時代になってきたようです。工務店に求められるものも単に優良な住宅を建てるという技術だけでなく、保守、管理、中古住宅の流通といった幅広い知識や情報が求められる時代になりつつあることを改めて認識するセミナーとなりました。